

# “音声外科センター”の開設について

さまざまな要因により、発声機能(声を出したり、話したりすること)に支障をきたし困っている方に対し、音声改善を図るため手術を中心とした有効な医療を提供する“音声外科センター”を、新たに設置します。

## 1. 設置の理由

本院では、すでに本年から声帯麻痺患者や痙攣性発声障害等の喉頭形成術や、外来における喉頭粘膜下異物注入術を開始しており、また、近隣開業医からの声帯萎縮や声帯溝症状などに関する紹介や問い合わせも増加傾向にあることから、今回のセンター化によって、更なる認知度の向上を図り、集患に繋げていくもの。

### 【主な術式】

- 声帯麻痺や痙攣性発声障害に対する喉頭形成術
- 声帯ポリープ、腫瘍に対する顕微鏡下喉頭微細手術
- 外来での声帯麻痺に対するアテロコラーゲン注入術  
(喉頭粘膜下異物挿入術)

## さまざまな「音声」に関する悩み…

### 声帯麻痺

腫瘍や外傷、神経損傷等により声帯をコントロールする筋肉が動かせなくなることで、声の変化や時に呼吸困難となる場合もある

### 痙攣性発声障害

声を出そうとする際に自分の意志とは無意識に声帯の筋肉が痙攣する病気で、声が詰まったり震えたりといった症状がある

### 声帯ポリープ

生体に膨らみ(ポリープ)ができることで、声帯がうまく閉じなくなり、発声しにくくなる

### 加齢による声帯萎縮

加齢により、声帯が痩せて細くなってしまうため、発生時に左右の声帯がしっかり閉まらず、声がかすれるなど出にくくなる状態

…etc

## 2. 必要性・有効性

- 現状、喉頭内を操作して幅広く対応できる医師が少ない。
- 特に喉頭形成術を行う事ができる医師は大学病院でも少数である。
- 難治性とされてきた痙攣性発声障害に対する甲状軟骨形成術Ⅱ型も 2017 年にチタンブリッジが認可されたが、手術に関しては大阪で対応可能な医師はごく少数であるが、当科は施設認定を得ている。

## 3. 開設日

令和5年 1月 4日 (水)

## 4. 開設場所

耳鼻咽喉科外来

## 5. その他

開設に向け、チラシ・ポスターを作成し各所に掲示するほか、本院ホームページや本院広報誌“かわせみ”、広報ひらかた等で、地域の診療所や住民に向け、積極的に PR していく。